

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 27 年度第 2 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 27 年 10 月 29 日 (木) 午後 6 時から午後 8 時まで		
開催場所	小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室		
出席者	委員	<出席者：12 名> 渡辺会長・大江副会長・加藤委員・降旗委員・清水委員・波多野委員・多田岳人委員・多田典子委員・北澤委員・勝又委員・鶴田委員・豊田委員 <欠席者：1 名>	
	事務局	中谷環境部長、小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・富田・穂山・佐藤・玉井	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
会議次第	1 開 会 平成 2 8 年度一般廃棄物処理計画の策定について (諮問) 平成 2 8 年度ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵応募作品審査 2 報 告 久喜宮代衛生組合 生ごみ処理施設の視察報告 小金井市における資源物持ち去り行為を禁止するための条例改正の可決について 燃やすごみの処理量の昨年度との月別比較について 浅川清流環境組合の設立について 3 議 題 平成 2 7 年度施策の自己評価について 4 その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他	次回開催予定 平成 27 年 11 月 25 日 (水) 小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室		

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	<p>では、これより平成27年度第2回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。</p> <p>本日は、岡山委員から欠席の連絡を頂いている。</p> <p>では、事務局から配布資料の説明等をお願いしたい。</p>
富田減量推進係長	<p>(配布資料確認)</p>
渡辺会長	<p>まずは、市長から「平成28年度一般廃棄物処理計画について（諮問）」の諮問を受ける。</p>
稲葉市長	<p>(諮問) (挨拶)</p>
小野ごみ対策課長	<p>市長は、所用のため、これにて退席させていただく。</p>
渡辺会長	<p>次に、平成28年度 ごみ・リサイクルカレンダーの表紙絵の応募作品の審査について事務局に説明をお願いしたい。</p>
穂山清掃係長	<p>今年も市内の小学校の4～6年生から238点の応募があった。ごみ対策課で1次・2次選考を経て、当委員会では、欠席委員を除く委員の方々に表紙絵と裏表紙に掲載する5点を選んで頂き決定する。結果は審議会の最後に報告する。</p> <p>(委員 601会議室にて選考)</p>
渡辺会長	<p>報告に入る。8月25日に埼玉県久喜市代衛生組合 生ごみ処理施設見学会を開催した。私を含めて7人の委員の参加があった。久喜市代衛生組合職員の方のご協力により、活発な質疑応答があり、様々なご感想があったことと思う。今後の審議に活かして行きたい。</p> <p>では、続いて事務局からお願いしたい。</p>
富田減量推進係長	<p>まず、「小金井市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例の一部を改正する条例の市議会における可決について」である。第1回審議会において、「小金井市における資源物持ち去り行為を禁止するための条例改正の基本的な考え方」に係るパブリックコメントの実施について、報告させて頂いたのちに、平成27年第3回小金井市議会定例会において、「小金井市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例の一部を改正する条例」が議決され、平成28年4月1日施行となった。改正条例の条文と新旧対照表を提出しているが、内容については3枚目の別紙、「資源物持ち去り行為に対する対応フロー（案）」を参照頂きたい。資源物の持ち去り行為者には、禁止命令を発し、その後20万円までの罰金を課すことができるとした条例となるが、実際には注意や警告書の交付などの手順を経て、なおの場合に禁止命令となることを想定している。今後は、規則の改正などとともに、本来の目的である「資源物を持ち去られにくい街づくり」を目</p>

審議過程（主な発言等）

<p>藤田ごみ処理施設担当課長</p>	<p>指して、市民や事業者の皆さんに十分な周知を図り、ご協力頂けるように進めていきたい。</p> <p>次に、「燃やすごみの処理量の昨年度との月別比較について」だが、今年度から目標として定めている、市民1人1日当たりの燃やすごみ排出量の状況については、目標値を達成した月は8月のみとなっている。月ごとによる主な増減の理由は、収集量の多い地域の収集日数が曜日の加減により多く入る月と少なく入る月があったことによるものと分析している。</p> <p>次にごみ処理施設担当から報告させて頂く。</p> <p>（市報こがねい ごみ減量・リサイクル特集 7月15日号 一部事務組合「浅川清流環境組合」の設立、施設の概要、今後の予定について説明）</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>報告から、1人1日当たりのごみ排出量について、目標達成は厳しい状況である。これまでのところで何か質問等はあるか。</p> <p>では、議題の平成27年度施策の自己評価について事務局から説明願いたい。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>平成28年度一般廃棄物処理計画の素案と事前に配布した平成27年度施策の自己評価（中間報告）をご覧頂きたい。</p> <p>昨年度策定して頂いた平成27年度一般廃棄物処理計画に記載している施策について、中間報告する。本来、前年度の実績をもって、次年度の実施計画の資料とするところだ。先ほど、市長から平成28年度一般廃棄物処理計画を諮問させていただいたが、本来は26年度の最終的な実績をもって協議して頂くものだ。しかし、今回は、昨年、新たに基本計画を策定したことによって、従前の形態になっている26年度の実績と、具体的な比較が出来ないことから、今回は特に平成27年度の中間報告という形の評価を行った。今回示したのは、あくまでも中間値であって、分析や今後の展開については不十分な部分もあるが、その点を踏まえて取り扱って欲しい。最終的な27年度の実績に対する評価については、実施計画の策定後、年度末の実績が出た段階でなるべく早くホームページなどで公表させて頂く。</p> <p>（平成27年度施策の自己評価（中間報告）の説明）</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>先ず、委員の方々から配布された資料について其々説明をお願いしたい。</p>
<p>大江副会長</p>	<p>久喜宮代衛生組合への視察に参加できなかったが、代わりに土浦市の生ごみ処理施設である日立セメントのバイオプラントを見て来た。日立セメントのプラントがあるというところが大きな施設優位性を持っている。そこを利用したガス化をしており特殊である。宮代とは違った生ごみ処理をしている。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>中間報告について気になったところについて意見を述べた。不燃系ごみは現在1%の減量目標であるが、実際はその半分にも満たない。発生抑制</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>してもかなり厳しい状況だと思う。今後の活動・展開に期待するしかない。</p> <p>大型生ごみ処理機の購入補助の問題についてだが、申請者がいないとのことだ。現行制度では、申請者は現れないだろうと兼ねてから意見してきた。購入者が設置場所確保や機器の補修・修繕・運用も負うということになり、自治会などには負担が大きい。私の知っている自治会でも最初は協力的だったが、申請は躊躇している。現在も要綱が改訂されていないので抜本的に見直さなければならないのではないか。八王子市では、地域集合住宅への大型生ごみ処理機等の貸し出しなどの取り組みを推進し、維持・管理も支援しているようだ。地域の拠点である市民センターなどに、大型生ごみ処理機の設置を検討するともなっている。ここまでは別として、このままではこれからは申請者は出ないだろう。これらの例も参考にして検討して頂きたい。</p> <p>次に店頭回収事業者の自主回収の問題だが、これもなかなか拡大が進まないというのが現状だ。閉店した事業者もあるという事情もあるが、平成20年度以降殆ど増えていない。日野市のように市民・事業者・行政による協働会議を設置するような運動としてやらなければ、啓発活動や周知徹底だけでは個別に当たっても進まないのではないか。</p> <p>また、土曜生ごみ投入リサイクルについては、10月22日土曜生ごみ連絡会、27日はごみゼロ化推進会議の役員会でこの問題を話した。全体的に増えているところもあるが、減っているところもある。ボランティアや参加者の固定化・1割程度の減少が見られる。今後、ボランティアの確保をしなければ継続できない。では、どうするか。一つは設置箇所の増加だがそれは難しいと思う。現在7つの小学校や中学校でやっている管理者を確保しなければならない。投入量の増加については、土曜日の1回の投入量は多くても50キロくらいであり、中には20キロや30キロのところもあるので処理機の余裕はまだある。参加者を増やす必要がある。私のところは町会の支援もあるので、量も参加者も増えている。ごみ対策課が町会や自治会に働きかけたり、ボランティアの確保をしないと続かない可能性があると思う。第二中学校は深刻である。全体的に減量が進まない状況である。一方で小金井市は平成26年度多摩26市の中で不燃ごみが一番多い。粗大ごみよりも多い。自己評価が甘いのではないか。</p>
渡辺会長	他に意見等はあるか。
大江副会長	<p>評価において、Cが出ているところは後半に向けてがんばってもらう必要があるし、きちんと評価してもらう必要がある。進捗と効率性がC評価なのは一番問題である。ABCの3段階なので尺度の考え方について、定性的、定量的にできるところと、できにくいところがあり、多少強引に評価する部分も否めないことになり、そうなるとこの評価だけで見られない。CCというのはもちろん悪いのだが、ACは、進捗はしているのだが、効率が悪いというのは、お金、人、あるいは物を投入しても効果が上がっていないということだから、そういったところにしっかり着目しないといけない。CBのように、やらないのに効果が出ているのはどうなのかというところもある。ACのところはかなりある。やったけれど果が出ていな</p>

審議過程（主な発言等）

<p>加藤委員</p>	<p>いというのは改善方向であれば、内容を十分検討して頂きたい。</p> <p>ごみ・リサイクルカレンダーの作成及び掲載内容の工夫について、過日、ごみゼロ化推進会議で提案書をごみ対策課長に提出した。これについても是非参考して頂きたい。また、駅頭キャンペーンについてだが、ティッシュや水切り袋を他市の人にも配布しているという意見もあるが、広域支援を受けていただいている近隣市の方に小金井の取組みを知っていただくという意味では、続けてもよいと思う。ただし、宣伝の方法は検討したほうが良いと思う。DVDについては、第二庁舎で場所を取って掲示もしているが見る人がいない。そのコーナーで転入者へのごみの説明をすべきだと提言したが、現状では難しいようだ。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>他に何かあるか。</p>
<p>降旗委員</p>	<p>チラシの全戸配布という項目があるが、ごみ・リサイクルカレンダーと一緒に配布しては如何か。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>色々な策が列挙されているが、非常に力を入れているものもあるし、それ程、費用も労力も投じていないものもある。その差を示せると良いと思う。先程、課長から主なものについて説明があったが、これを見ただけでは力を入れているもの、それ程ではないものが分からない。また、効率性についても、どう見るかというのは難しい。リサイクル事業所との連携でも、粗大ごみがリユースされればそれなりに効果があったと言えるかも知れない。しかし、全体のごみ量からいうと余り多くはないので、効果は低いということになる。見方は色々あると思う。</p> <p>フリーマーケットの支援は縮小という方向性が示されているが、実際にどのようなことをやっているのか知りたい。余り努力と資源を消費しないのであれば敢えて縮小する必要はないのではないか。3Rを進めていくことに於いては、リユースなので進めるべきだと思う。</p> <p>処理しない廃棄物への対応だが、専門に取り扱う業者との情報交換というのも効率性Cになっている。結局、市が取れないものは取扱業者に扱ってもらわなければならない。これは市が集めないのだから、手間が掛かっても対応しなければならないものだ。発生抑制というのもあるが、発生抑制して家の中に有害廃棄物が退蔵されるというのは望ましくない。これも効果をどう考えるかに拠る。</p> <p>市報に関していつもAAで出ていて、確かにしっかりやっているし、それなりに効率性も高いと思われるが、市報を読まない人もいるので、AAだからこれで市民に広報出来ているとは言い切れない。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>私は、最優先強化という項目を一番重点にするという捉え方でよいと思う。1 ページ目の啓発活動の項目については、非常事態宣言以来やっているのだから、これだけをやっていたのではごみは減らないと思う。単なる啓発活動ではなく、取組みをしなければならない。例えば、生ごみの水切りモニター調査は過去 1 回あったが、もう一度水切りモニター調査をやると</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>か、自家処理についてどういう形でやっているのか、よく調査しなければならない。大型生ごみ処理機購入費補助の要綱改正には、公平性ということがあるが、大型生ごみ処理機は一度地域に出たら3～5年で撤去することはないと思う。しかし、家庭用生ごみ処理機を使用している場合は5年ほど経ち、故障などすれば、殆どの方は止めてしまう。再申請し、再購入するかどうかということだ。効率性から言っても自家処理よりも地域で設置したほうが良いという考え方であると思っている。</p> <p>その他に質問が二つある。一つは、可燃ごみの3市協働処理に向けて、ごみの分別を統一するのか。分別によってはごみが減る場合もあるし、減らない場合もある。統一化は可燃ごみを中心としたものかどうかが。どの程度までこの話が進んでいるのか。また、新しい中間処理施設の問題の検討について、ジャノメ跡地にあるリサイクル事業所について粗大ごみの関係なのか、或いは、リユースする所なのかも含めて、中間処理をどの程度整備統合するのか、二枚橋についてはどの施設を移設するのか。リサイクル事業所を二枚橋へ持って行くと市民はなお、行かなくなってしまうと思うのだが、その辺のことをお聞きしたい。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>事務局から答えて頂きたい。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>可燃ごみについては、5年後には新しい施設に持って行くわけだが、共同処理する3市は、出来る限り同じ状態でやって行くという意見が出ている。まだ意見交換のレベルで、具体的なことは決まっていない。</p> <p>また、廃棄物関連施設の将来のあり方の検討についてだが、具体的なことは決まっていない。中町に缶・ペットボトルの中間処理と布のストックヤードがあるが、庁舎建設予定地であるので暫定的な施設であることには間違いない。今、一番大きな問題は、中間処理場が大規模改修後、相当期間経っているため、中間処理場の更新の検討を行っているところである。それに併せて中町にある中間処理施設をどこに持って行くか検討を始めたところである。中期財政計画の中で、その再整備関連の計画等を作成していきたいと考えている。具体的に何をどうするかは全く決まっていない。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>いつ頃、はっきりするのか。今年度中か、来年度中か。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>今、予算編成中だが、担当としては財政当局に28年度から計画を作って行きたいということで要求しているが、決定はしていない。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>フリーマーケットの件は如何か。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>多くの人がフリーマーケットを催したいという申し出があって、後援をしている。一部ごみ対策課の職員が係っているものもある。そちらについては、過去の経過等があるので、なかなか抜本的な見直しは難しいが、係り方を見直さなければならない時期かと思う。その中で、縮小という表現にした。あくまでも評価なので、今後どうするかは検討を続けていかなければ</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>ればならない。</p>
渡辺会長	<p>他にコメントはあるか。</p>
勝又委員	<p>資源循環システムの構築のところの枝木・雑草類の回収方法の見直しの検討だが、進捗はBで効率性はAでうまく回っているのかと思うのだが、個人的にも助かっている。どういう点を見直さなければいけないのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>現状、落ち葉のみ一部を可燃ごみとしても回収可としているが、分かりにくいとの声もある。市民の方々の負担や混乱の無いように枝木・雑草類・落ち葉の回収方法の見直しの検討を現在行っているところだ。</p>
勝又委員	<p>自分で粉碎機を買って庭に撒いている人もいるし、小金井は緑が多く林を持っている人もいるので、支援があれば助かると思う。例えば、貸し出しなどがあると生ごみ処理機のように自分の家で処理できるのではないか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>そういう市民がいることは認識しているので、参考にさせていただきたい。先程、加藤委員からの話にあったが、他市では、生ごみ処理機の貸し出しをしている事例もある。補助金の見直しの検討の参考にさせていただきたい。ごみの減量及び資源化の推進を図るために有効なのかどうかも含めて検討させて頂く。</p>
加藤委員	<p>多摩市はガーデンシュレッダーを貸し出している。また、腐葉土化バッグは、3年以上利用する団体には無償貸与だ。市が回収すればリサイクル率は高まるかも知れないが、リサイクル率が低くても、家庭や団体でやってもらうのが良い。10月1日から開始したようだが、1か月足らずで30団体が申請しているようだ。利用者にお金は掛からない。塩ビの袋のようなものに入れて暫くすると堆肥になる。そういうことも検討の参考にしたい。</p>
清水委員	<p>今回頂いた中間報告の自己評価についてだが、個別の評価が中心になっているのが気になる。個別の取組みはオールAになったが、実は計画の目標は駄目だったということも十分有り得る。細かい施策を挙げて、あらゆることをやるばかりでは職員の負担が過重になるので、中には廃止があっても良いと思う。計画項目の評価がどうだったというのは出ないのか。それについて、個々の具体的なツールがどう貢献したのか、ということではないのか。</p>
北澤委員	<p>項目を作ったときに、どのくらい効くのかという分析をしないで、たくさん項目だけを並べても意味がない。効果の重み順に並べてその結果がどうだったのか評価しないと上手くいかないのではないのか。最初のやり方が統一的ではなかったのかと思う。この評価自体はどのような形でやったのか。また、事業の推進状況でAが計画どおりで、Bが計画より遅れている</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>が進捗している、Cは計画より大きく遅れている、どのくらい遅れているとBからCに落ちるのか、あるいはCは事業が全く推進していないのか、この辺りの重み付けが良く分からない。効率性についてもAは十分な効率性があると、Bは効率性と効果の均衡性が保たれている。非常に効率的で効果も良いというのはBになるのか、よく分からない。業務遂行上、効率的とは言えないということだが、遅々として進まないが効果があるということもあると思う。皆さんで議論した上で評価を決めているのだろうが、評価の判断基準が分からないというのが、私の意見だ。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>こういう形態の評価は初めてで、今までの評価とは違う。評価方法としては、担当者レベルで評価したものを各係ごとにまとめて私がこれで良いだろうとしたものである。</p> <p>また、事業の進捗や効率性のABCランクだが、色々な観点から見なければならぬし、もっとランクがあっても良いと思うが、今回は3ランクにさせて頂いた。今後、この評価について、平成27年度の評価を年度末に行うがその中で、また、これから28年度の実施計画策定に当たって、この評価に立ち戻って議論する場面もあるかと思うので、参考にさせて頂いて、平成27年度評価の見直しが出来るものについては見直しをしていきたい。今日のご意見もきちんと受け止めて検討させて頂きたい。</p>
<p>富田減量推進係長</p>	<p>今回の自己評価において重視した点は、直接事業を担当している担当者の所感なども含め、事業の実情が伝わるような資料にしたいという思いがあって、このような形で報告させて頂くことにした。バランスの悪いと感じられる評価となるような部分についても、敢えてそのままとした。また、ご指摘頂いているとおりの、計画項目に対する評価になりきれていない部分もある。本審議会において28年度の施策を策定して頂くに当たって、これらの評価を踏まえて、今後どのような修正をしていけるものなのか、また、平成28年度の目標としてどういう設定をしていくものなのか、年度末評価のほうには、もっと丁寧な評価であるとか、今後どう反映していくのかが見えやすいような記載項目の訂正なども踏まえて考えていきたい。各委員のご意見は、受け止めさせて頂く。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>冒頭で説明させて頂いたように、今回のこの評価は公表の段階に至っていないものである。あくまでも審議会の参考資料として扱って頂く形になる。年度末の評価のときにきちんと公表できればと考えている。改めてご理解頂きたい。</p>
<p>大江副会長</p>	<p>今の率直なご意見は良いと思うが、提案がある。ABCを明確に出そうとすると定量的なものにしなければならない。そうすると評価項目が限られてしまうので、大きな計画項目の中の一つの項目で代表指標的に評価するとか色々なところでやられている方法があるが、余りにも単純化しないと定量的に出てこないし、定性的なものを含んで項目の重いものをやろうとすると様々な問題点が出てくる。難しいところだが、中間報告を出してくれたことにより、皆さんのご意見を聴けたので、最終評価の完成前の事</p>

審議過程（主な発言等）

<p>ごみ対策課長</p>	<p>務局案について審議会の意見を訊くようにしたら如何か。そうすると委員の皆さんの市民感覚の意見が反映される部分も出てくるし、専門的な部分も出てくるし、より双方が納得のいくABC評価になるような気がするのだが如何か。</p> <p>27年度の実績は3月末になるまで出ない。今までは、各年度の実施計画策定の後で、審議会を開いたことは余りなかったが、今回は6月末までの任期中に、27年度の評価をお示しできるようにしたい。</p>
<p>清水委員</p>	<p>審議会委員において、計画項目の部分だけでも、定性的評価として、自分がまあ良いなと思ったらAをつけて、まあまあならB、ちょっと駄目ならCをつけてはどうか。そうすると項目が減る。分からないとことは無理に評価しない。皆さんに書いてもらってどんな評価が出るか見てはどうか。どこまで有効かは不明だが、審議会委員の感覚がわかるという意味でも、やってみるのも面白いと思う。</p>
<p>多田岳人委員</p>	<p>こういった評価をするときに特別に第三者的な評価委員会を立ち上げることは考えていないのか。例えば、コンサルタント事業者、ごみゼロ化推進会議、この審議会、公募市民、ごみ対策課以外の職員などから新たな評価委員会を作ったほうがより実態に近い評価が出るのではないか。進捗と効率がAAとかBBとかCC、AB、BC、ACは分かるが、CA、BA、CBなどに評価が逆になっているところは理解できない。進捗はしていないが、効率性は良いということになる。どういうことか、説明して頂きたい。</p>
<p>富田減量推進係長</p>	<p>これについては、取り敢えず自己評価であるので、その上の段階として第三者的な目であるとか、専門的な目で見て頂く評価は価値があると考えている。一項目ごとの施策全ての評価というものは担当者や直接ご利用頂いた方でないと分からないことも多いと思う。どのような形で総評のようなものを頂くことが出来るかは、今後検討していきたい。評価について、事業進捗と効率性の評価の基準や、事業進捗に比べて効率性の評価の方が上回っているというものについても、分かりにくい部分があるかと思う。先程からご指摘頂いているとおり、ABCという評価では限界があった。ABCだけで単純に評価していくことがどうなのかという部分もあったが、では、どういう評価をしていくかというところで、定量的数値とか定数的、第三者的に見た評価となり得るようなものを目指し、文言で書き連ねない評価をするときに、敢えて強引にでも評価をしたという面もある。だから、何故こういう評価になるのかというご指摘は、そのとおりかと思う。しかし、A評価になるような事業進捗と言えるほどの事業への注力が出来たとは言えないが、市民の皆様のご協力であるとか、各部署との連携の結果により他者からの評価としては高評価を頂いている場合もあるので、そういったものについては、事業進捗に比べて効率性の評価が上回ったという場合もある。</p>

審議過程（主な発言等）

加藤委員	<p>ごみゼロ化推進会議では、ごみ処理機の手引きや生ごみアドバイザーの提言をしている。生ごみアドバイザーはサポーターやリサイクルリーダーという名前で、多摩の多くの市でやっている。生ごみ処理機を買ったは良いが、どうしたら良いか分からないこともあるだろう。有効に活用されるように、生ごみ処理機の使用者の経験を公表したり、助言を聞くことが必要でないかと思っている。</p> <p>埋め立て処分の最小化の強化だが、25年度は埋め立てが44トン、26年度の実績は14トン、27年度の計画は41トンと27トン増やしているが、何故こうなったのか説明して頂きたい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>資源化できないものを埋め立てるとなっているが、資源化できないものをより精査したことによって実績が下がった。その分はより精査して資源化できる施設へ持って行った。</p> <p>また、第三者評価のところだが、先ほど担当が述べたように、あくまでもこれは自己評価である。この自己評価を踏まえて今日素案で配布した28年度一般廃棄物処理計画を作った。28年度一般廃棄物処理計画をこれから皆さんに審議頂くわけだが、その審議の中で参考となるように中間報告として提出した。その中でのご意見も第三者評価であると思っている。処理計画の中で足りない項目や廃止しても良い項目についての議論をして頂いて、28年度の一般廃棄物処理計画を策定して頂きたい。</p>
渡辺会長	<p>本日、まだ発言されていない方でご意見はないか。</p>
鶴田委員	<p>私は、この自己評価は進めて行って頂きたい。27年度の施策の達成見込みは今、どんな状況か。見込み的には全てやり切れるのか、少し計画を見直す必要があるものがあるのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>個別に見ると達成できないものもあるし、達成しない方向に見直していく施策も出てくるかも知れない。しかし、27年度一般廃棄物処理計画は、皆様に議論して頂いて策定したもので、基本は全て達成に向けて努力したい。</p> <p>先程ご意見があった大型生ごみ処理機については、27年度中も申請者がゼロではないかと思っているので、見直しをしなければならない。他にも幾つか見直す施策があるかも知れない。</p>
鶴田委員	<p>それに対するアクションというのは、これから個別に検討していくのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>そうなる。</p>
渡辺会長	<p>議題に関しては、ここまでとさせて頂きたい。</p>
穂山清掃係長	<p>(平成28年度ごみ・リサイクルカレンダー選考集計結果発表)</p>

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	次回の審議会は、11月25日（水）午後6時から午後8時までこの部屋になる。それ以降に関しては配布のと通りの予定である。次回から諮問を受けた処理計画の審議に入りたいと思うので宜しくお願いしたい。 では、これで閉会とする。
------	--

以上